

## ◆ 薬価基準収載医薬品 (2023.5.24) - 新医薬品 -

【11成分17品目】

内用薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考 ([作用機序]、[承認条件]等)	RMP
5/24	トロンボポエチン受容体作動薬	ドプレット錠20mg	20mg 1錠	7,106.60	製造販売元/ Swedish Orphan Biovitrum Japan 発売元/旭化 成ファーマ	アバトロンボパグマ レイン酸塩	待機的な観血的手技を 予定している慢性肝疾患 患者における血小板減 少症の改善	通常、成人には、アバトロンボパグとして以下の用量を1日1回、5日間食後に経口投与する。 投与開始前の血小板数が40,000/μL以上50,000/μL未満：40mg 投与開始前の血小板数が40,000/μL未満：60mg	ピーク時の予測投与患者数:723人。 [作用機序] 本剤は、経口投与可能な低分子のトロンボポエチン受容体作動薬であり、造血前駆細胞から巨核球の増殖及び分化を促進し、血小板数を増加させる。本剤は、トロンボポエチンと競合することなくトロンボポエチン受容体に結合し、血小板産生を促進する。	<a href="#">RMP</a>
5/24	先天性胆汁酸代謝異常症治療薬	オファコルカプセル 50mg	50mg 1カプセル	12,596.00	製造販売/レク メド	コール酸	先天性胆汁酸代謝異常症	通常、コール酸として1日量5～15mg/kgを1回又は数回に分けて食事中に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減すること。	希少疾病用医薬品 (ピーク時の予測投与患者数:7人)。 [作用機序] 先天性胆汁酸代謝異常症の患者では、コレステロールから胆汁酸に代謝されるまでの生合成経路におけるいずれかの酵素の欠損により、胆汁酸の生成まで反応が進まず、毒性の強い中間代謝産物（異常胆汁酸等）が蓄積されることにより肝機能障害が生じる。また、コール酸の不足により、胆汁酸生合成経路の律速酵素である cholesterol 7α-hydroxylase (CYP7A1) に対する負のフィードバック制御が機能せず、胆汁酸生合成経路が亢進し、異常な中間代謝産物がさらに増加する。本剤の経口投与は、肝臓において CYP7A1をダウンレギュレーションさせ、異常な中間代謝産物の産生を抑制する。さらに、胆汁流量を増加させ、異常な中間代謝産物やビリルビン等の肝クリアランスを促進する。また、コール酸の不足により吸収が低下する脂溶性ビタミンと脂肪の吸収を促進する。  [承認条件] 全症例対象の使用成績調査の実施。	5/24現在、掲載無し。

## 注射薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考（[作用機序]、[承認条件]等）	RMP
5/24	抗パーキンソン剤	ヴィアレブ配合持続皮下注	10mL1瓶	13,277	製造販売元／ アヅヴィ合同	ホスレボドパ ホスカルビドパ水和物	レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善	本剤投与前の経口レボドパ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与する。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。なお、必要に応じて持続投与中に追加投与を行うことができる。 通常、成人には、本剤を0.15～0.69mL/時間（レボドパ換算量として約26～117mg/時間）で持続投与する。負荷投与を行う場合は本剤0.6～2.0mL（レボドパ換算量として約100～350mg）を投与する。追加投与は本剤を1回あたり0.1～0.3mL（レボドパ換算量として約17～51mg）で投与する。 本剤の投与量は症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL（レボドパ換算量として2840mg）を超えないこと。	パーキンソン病の薬物療法において標準治療とされているレボドパ・カルビドパの分子構造を基に開発されたプロドラッグ製剤。	<a href="#">RMP</a>
5/24	ヒト化抗ヒト $\alpha_4\beta_7$ インテグリンモノクローナル抗体製剤	エンタイビオ皮下注108mgペン	108mg 0.68mL 1キット	69,888	製造販売（輸入）元／武田薬品工業	ベドリズムブ（遺伝子組換え）	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限り）	通常、成人にはベドリズムブ（遺伝子組換え）として1回108mgを2週間隔で皮下注射する。	既存品（点滴静注用300mg）に新剤形追加。 薬液を充填したプレフィルドガラスシリンジとオートインジェクターを組合わせたキット製剤。	<a href="#">RMP</a>
		エンタイビオ皮下注108mgシリンジ	108mg 0.68mL 1筒							

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考（[作用機序]、[承認条件]等）	RMP															
5/24	ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤	オンボ-点滴静注 300mg	300mg 15mL 1瓶	192,332	製造販売元/ 日本イーライリ リー 販売/持田製 薬	ミキズマブ（遺伝子組換え）	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）	通常、成人にはミキズマブ（遺伝子組換え）として、1回300mgを4週間隔で3回（初回、4週、8週）点滴静注する。なお、12週時に効果不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回（12週、16週、20週）投与することができる。 また、ミキズマブ（遺伝子組換え）皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には、1回300mgを4週間隔で3回点滴静注することができる。	本剤は、抗インターロイキン（IL）-23ヒト化IgG4モノクローナル抗体であり、ヒトIL-23のp19サブユニットに高い親和性と特異性で結合し、IL-23受容体との相互作用を阻害する。他のIL-12ファミリーメンバー（IL-12、IL-27及びIL-35）との交差反応性は認められていない。	RMP															
5/24	ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤	オンボ-皮下注 100mgオートインジェクター	100mg 1mL 1キット	126,798	製造販売元/ 日本イーライリ リー 販売/持田製 薬	ミキズマブ（遺伝子組換え）	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）	ミキズマブ（遺伝子組換え）点滴静注製剤による導入療法終了4週後から、通常、成人にはミキズマブ（遺伝子組換え）として1回200mgを4週間隔で皮下投与する。	薬液を充填した針付きガラス製シリンジにペン型注入器を取り付けたコンビネーション製品。	RMP															
	オンボ-皮下注 100mgシリンジ	100mg 1mL 1筒	126,798	針付きガラス製シリンジに薬液を充填したブレフィルドシリンジ。																					
5/24	フェニルケトン尿症治療剤	パリンジック皮下注 2.5mg	2.5mg 0.5mL 1筒	61,606	製造販売元/ BioMarin Pharmaceutic al Japan	ベグバリアーゼ（遺伝子組換え）	フェニルケトン尿症	通常、成人にはベグバリアーゼ（遺伝子組換え）として1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与する。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、以下の漸増法に従い、段階的に増量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に増量できるが、最大用量は60mgである。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。  1日1回20mgまでの漸増法	希少疾病用医薬品（ピーク時の予測投与患者数:127人）。 [作用機序] 本剤は、遺伝子組換えフェニルアラニンアンモニアラーゼ類縁体であり、テトラヒドロピオブテリン非依存的にフェニルアラニンをアンモニア及びケイ皮酸に代謝する。 [承認条件]全症例対象の使用成績調査の実施。	5/24現在、掲載無し。															
5/24		パリンジック皮下注 10mg	10mg 0.5mL 1筒	64,155																					
5/24		パリンジック皮下注 20mg	20mg 1mL 1筒	65,468																					
						<table border="1"> <thead> <tr> <th>用量・投与頻度</th> <th>投与期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5mgを週1回投与</td> <td>4週間以上</td> </tr> <tr> <td>2.5mgを週2回投与</td> <td>1週間以上</td> </tr> <tr> <td>10mgを週1回投与</td> <td>1週間以上</td> </tr> <tr> <td>10mgを週2回投与</td> <td>1週間以上</td> </tr> <tr> <td>10mgを週4回投与</td> <td>1週間以上</td> </tr> <tr> <td>10mgを1日1回投与</td> <td>1週間以上</td> </tr> <tr> <td>20mgを1日1回投与</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		用量・投与頻度	投与期間	2.5mgを週1回投与	4週間以上	2.5mgを週2回投与	1週間以上	10mgを週1回投与	1週間以上	10mgを週2回投与	1週間以上	10mgを週4回投与	1週間以上	10mgを1日1回投与	1週間以上	20mgを1日1回投与	-		
用量・投与頻度	投与期間																								
2.5mgを週1回投与	4週間以上																								
2.5mgを週2回投与	1週間以上																								
10mgを週1回投与	1週間以上																								
10mgを週2回投与	1週間以上																								
10mgを週4回投与	1週間以上																								
10mgを1日1回投与	1週間以上																								
20mgを1日1回投与	-																								

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考 ([作用機序]、[承認条件]等)	RMP
5/24	抗悪性腫瘍剤/ ロペグインターフェ ロンα-2b製剤	ベスレミ皮下注250μg シリンジ	250μg 0.5mL 1筒	297,259	製造販売元/ ファーマエッセンシ アジアパン	ロペグインターフェ ロン アルファ-2b (遺伝子組換 え)	真性多血症(既存治療 が効果不十分又は不適 当な場合に限る)	通常、成人には、ロペグインターフェロン アル ファ-2b (遺伝子組換え) (インターフェロン アルファ-2b (遺伝子組換え)として) 1回 100μg (他の細胞減少療法薬を投与中の 場合は50μg) を開始用量とし、2週に1回 皮下投与する。 患者の状態により適宜増減するが、増量は 50μgずつ行い、1回500μgを超えないこと。	本剤は、I型インターフェロン(IFN)受容体 に結合し、ヤヌスキナーゼ1及びチロシンキ ナーゼ2の活性化を介して、下流のシグナル 伝達分子のリン酸化を増加し、IFN誘導遺 伝子の発現を増加させ、細胞周期の停止 及びアポトーシス誘導を引き起こすこと等 により、腫瘍増殖抑制作用を示すと推測され ている。しかし、真性多血症患者での効果 の発現機序については不明。	<a href="#">RMP</a>
		ベスレミ皮下注500μg シリンジ	500μg 1mL 1筒	565,154						
5/24	免疫抑制剤	アトガム点滴静注液 250mg	250mg 5mL 1管	75,467	製造販売元/ ファイザー	抗ヒト胸腺細胞ウ マ免疫グロブリン	中等症以上の再生不良 性貧血	通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細 胞ウマ免疫グロブリンとして40mgを緩徐に点 滴静注する。投与期間は4日間とする。	希少疾病用医薬品 (ピーク時の予測投与患者数:353人)。 [作用機序] 本剤はリンパ球表面の多様なタンパク質に 結合する様々な抗体で構成され、顆粒 球、血小板及び骨髄細胞に結合する。本 剤の主な作用機序として、循環血中のTリ ンパ球に最も強く作用し、リンパ球を減少 させることが示唆されている。	<a href="#">RMP</a>

## 外用薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考 ([作用機序]、[承認条件]等)	RMP
5/24	原発性手掌多 汗症治療剤	アポハイドローション 20%	20%1g	545.80	製造販売元/ 久光製薬	オキシプチン塩 酸塩	原発性手掌多汗症	1日1回、就寝前に適量を両手掌全体に塗 布する。	本剤は、エクリン汗腺に発現するムスカリン 受容体に対して抗コリン作用を有することに より、抑汗作用を示すと考えられる。	<a href="#">RMP</a>
5/24	フルオロキノロン 系抗菌耳科用 製剤	コムレクス耳科用液 1.5%	1.5% 5mL 1瓶	1,584.50	製造販売元/ セオリアファーマ 販売元/武田 薬品工業	レボフロキサシン水 和物	〈適応菌種〉 本剤に感性的ブドウ球菌 属、レンサ球菌属、肺炎 球菌、モラクセラ (ブラン ハメラ)・カタラーリス、肺 炎桿菌、エンテロバクター 属、セラチア属、インフル エンザ菌、緑膿菌、アシネト バクター属 〈適応症〉 外耳炎、中耳炎	通常、1回6～10滴を1日2回点耳する。点 耳後は約10分間の耳浴を行う。なお、症状 により適宜回数を増減する。	DNAジャイレース及びトポイソメラーゼⅣの 阻害による細菌のDNA合成阻害。	<a href="#">RMP</a>
5/24	壊死組織除去 剤	ネキソブリッド外用ゲル 5g	5g1瓶 (混合用 ゲル付)	162,995.90	製造販売元/ 科研製薬	バイナッブル茎搾 汁精製物	深達性Ⅱ度又はⅢ度熱 傷における壊死組織の除 去	混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加え て混合し、本剤を調製する。本剤を熱傷創に 適量塗布し、4時間後に除去する。	希少疾病用医薬品 (ピーク時の予測投与患者数:1,600 人)。 [作用機序] タンパク質分解作用を示し、壊死組織の分 解及び除去に働く。	<a href="#">RMP</a>